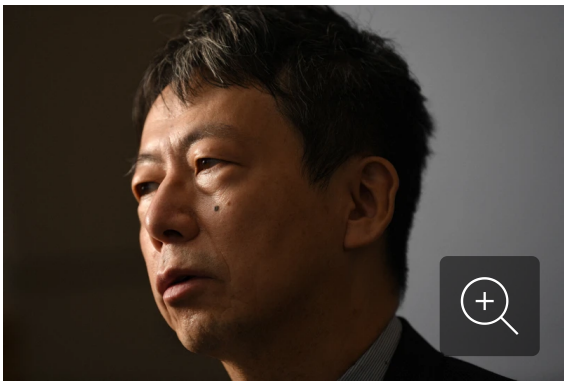
大人のひきこもり「8050問題」　親亡き後に待つ兄弟姉妹の葛藤

黒田阿紗子　社会 | 速報

毎日新聞 | 2023/6/28 10:00（最終更新 6/28 10:00）　有料記事　2035文字



KHJ全国ひきこもり家族会連合会副理事長の池上正樹さん＝東京都千代田区で2021年6月4日、内藤絵美撮影

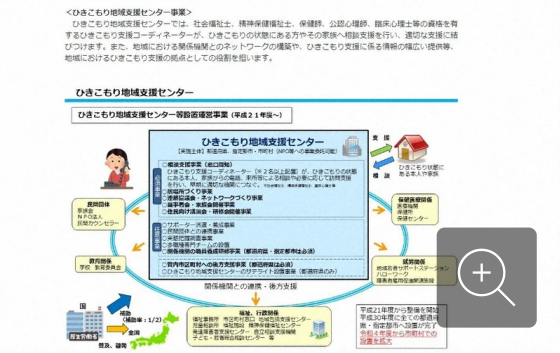
ひきこもる中高年の子を養ってきた親が、高齢で亡くなる。その時、さまざまな対応を迫られるのが、その子の兄弟姉妹だ。「支えたい。でも、自分にも生活がある」。NPO法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会（家族会）」副理事長の池上正樹さん（60）も、そうした葛藤を抱えてきた一人。今まで見過ごされてきた「8050問題」の先にある課題に向き合おうと、家族会が動き出した。

扶養義務はなくても

内閣府によると、半年以上にわたり家族以外と交流せず、自宅にいる40～64歳のひきこもりの人は全国に84万人と推計される。80代の親が50代の子を養う様子を例えた「8050問題」はかねて指摘されてきた。問題の長期化で、高齢の親の死後、残された子の生活をどう支えるかが社会課題になっている。家族会には、ひきこもりの人の兄弟姉妹からの相談が増えているという。

「扶養義務はなくても、関係ないと割り切ることはできない」。長年ひきこもり現場を取材してきた池上さんは、兄弟姉妹の立場を代弁する。当事者を支援する家族会を設立時からサポートし、フリージャーナリストでもある池上さんには、ひきこもり状態の末に亡くなった4歳下の弟がいる。

父は大手企業の管理職、母はPTA会長を務め、教育熱心な家庭に育った。「優等生だった弟は、両親が立派であるが故に完璧を求められ、苦しんでいたのかもしれない」。弟の成績は中学で急降下し高校を中退。非正規雇用で働くこともあったが長続きせず、気付くと実家でひきこもりのような状態になっていった。



ひきこもり状態の人を対象にした支援事業について紹介する厚生労働省のウェブサイト

池上さんは大学進学を機に実家を出た。通信社勤務などを経て独立。母に頼まれ、弟をアシスタントに雇ったこともあった。しかし、事務所の備品を必要以上に買い込まれ、池上さんが支払いなどで生活に支障をきたすようになり、雇い続けられなかった。「お兄ちゃんなんだから面倒見なくてどうするの」。親戚からの責められるような言葉が、いつまでも心に刺さった。

親亡き後の変化

母は晩年まで、弟を何とか働かせようと焦っていた。母や父が病気になった時、弟は家事や介護に熱心に取り組んでくれたが、「外では働けない」とも話していた。弟の抱える生きづらさや「親亡き後」について、家族で話し合うことは最後までなかった。

池上さんも「長男が何とかしてくれるだろう」という親のプレッシャーを感じ、話を切り出せなかった。「今なら母に『生きているだけでいいじゃないか』と言える。でも当時は親と同じように、弟自らが働かなければと、どこかで責めていた」

2010、11年に両親が相次いで亡くなった。実家に残された弟を、時々訪ねた。異変に気付いたのは3年ほどたった頃。昼間にもかかわらず雨戸を閉め切り、部屋の中は真っ暗で酒瓶や本などが散らかっていた。寝たまま動かない姿を見て、「生きる気力を失っているようだ」と思った。

両親が残した遺産を使い果たし、多重債務を抱えていることも分かった。「家をのぞく人がいて、話し声が聞こえる」と言い出し、自ら入院を希望した。診断は統合失調症。だが、本人は「違う」と否定し続けた。

医師の説明の付き添いや債務整理、退院後の生活の準備など、池上さんは奔走した。弟には金銭管理をしてもらえるグループホームを勧めたが本人は望まず、賃貸アパートを希望したので、その保証人にもなった。

16年1月。一緒に食べようとおせち料理を持って訪ねた。相変わらず雨戸は閉まったまま。「照明器具を買ってきたよ」。真っ暗な部屋に照明を取り付けようとしたら、弟は突然、「誰か連れてきたでしょう。話し声が聞こえる」と怒りだし、どうすればいいかわからなくなった。追い出されるように部屋を出たのが、弟の顔を見た最後だった。

5カ月後、不動産管理会社から家賃滞納の連絡が入った。代理人に確認してもらうと、弟は部屋で亡くなっていた。病死だったという。腐敗が進み、対面はかなわなかった。49年の生涯だった。

思いを共有できる場を

弟の存在を周囲に語り始めたのは最近のこと。生前、弟から「僕のことは記事に書かないで」と言われたのが引っかかっていたからだ。しかし、家族会に同じ境遇の兄弟姉妹から相談が相次ぐようになり、誰かの役に立つかもしれないと思い直した。

取材中、池上さんは「正直に言うと」と切り出した。

「兄弟姉妹の会メタバース支部」の交流拠点となるメタバース居場所。ひきこもり本人や、本人と親が交流できるスペースもある＝NPO法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」提供

「弟に対して、もう背負いきれないと思ったこともあった。でも本当に大事に思っていた。矛盾しているようでも、その時々でさまざまな感情がわき起こってくる。人間、未熟な生き物だと実感した」

家族会は7月8日、オンラインで交流できる「兄弟姉妹の会メタバース支部」を発足させる。月1回、仮想空間「メタバース」上に居場所を開設。ひきこもりの兄弟姉妹を持つ全国の人たちが悩みを共有する場にしたい。そのことが、ひきこもる当事者の支えにもつながると信じている。

問い合わせは、池上さん(ikegami@khj-h.com)まで。【黒田阿紗子】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.